

## コックピットでの1時間

その日、私はドイツのフランクフルトから東京行きの飛行機に乗っていました。飛行機の中で私は、子供のころ祖母が地球儀を見せながら話してくれたことを思い出していました。その時、祖父母はヨーロッパ旅行から日本に帰ってきたばかりでした。日本からヨーロッパへ行くときは、ふつう、ロシアの上を通りません。でも当時は冷戦中で、ロシアの上を飛行機が飛ぶことはできませんでした。だから、日本からヨーロッパへ直接行くことはできませんでした。もちろん祖父母も東京からアラスカのアンカレッジまで行って、アンカレッジで飛行機を乗り換えて、北極圏を通してヨーロッパまで行ったそうです。

私がドイツから東京まで飛んだ1990年代後半、冷戦は終わっていたので、ロシアの上を安心して飛ぶことができました。でも、ロシアは広いので、「どの辺を飛ぶんだろう？」と私は思って、シートのポケットに入っている航空会社の雑誌を見ました。その雑誌にはフライトのルートが書いてありましたが、ルートがたくさんあって、どれだかわかりません。そこでフライトアテンダントに聞いてみました。ところが、フライトアテンダントもどのルートを飛んでいるのかわかりませんでした。そのうち、私は寝てしまいました。

1時間ぐらい経ったでしょうか。私が寝ていると、誰かが肩をたたきます。目を開けると、さっきのフライトアテンダントでした。ルートを機長に聞いてくれ

たと言って、雑誌を広げてルートを教えてくれました。そして、次の瞬間、こんなことを言ったのです。「このようなことに興味をお持ちのお客様にぜひお会いしたいと機長が申しております。よろしかったらコックピットにいらしてくださいとのことですが・・・」こんな素敵な招待を断る理由はありません。私は「ぜひ！」と言って、早速コックピットへ連れて行ってもらいました。

コックピットには機長と二人の副機長がいました。前にも頭の上にもスイッチやパネル機器がたくさんあって「かっこいい！」と思ったのを覚えています。窓からは空と地平線しか見えません。そして、色々なことを教えてくれました。例えば、機長と副機長は同じものを食べないこと（同じものを食べて、みんなが具合が悪くなったら困るから）、飛行機で揺れないのは翼の近くのシートだということ、積乱雲はあぶないから避けて通ることなどを教えてくれました。地上にいる管制官との会話も聞くことができました。もちろん家族や趣味のこと、ニュースや芸能界の話などふつうの話もして、私はコックピットの中で1時間ぐらい過ごしたのです。

これは本当に貴重な経験でした。最近は飛行機のセキュリティがどんどん厳しくなっているので、こういった機会はもうあるとは思えません。もし、その機長にまた会うことができたら、是非お礼を言いたいと思っています。



(1153 字)

(2023.1 Written by Mami TANAKA)



この作品はクリエイティブ・コモンズ 表示 - 非営利 - 継承 4.0 国際 ライセンスの下に提供されています。この作品を利用する場合は、「たどくのひろば」を出典として示してください。

例) 出典 : 「たどくのひろば」 (<https://tadoku.info>)

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License. When you use this work, please indicate the source as in the example above.